全釧路情報

2015.7.15　No.7　全釧路教職員組合

つながっていれば、私たちは負けない！
福島の今を知ろう講演会に８０名が参加

７月１０日(金)に、交流プラザさいわいで「生業を返せ、地域を返せ！福島原発訴訟原告団が語る『福島の今を知ろう』講演会」がありました。講師は、服部崇さん。福島県北農民連事務局長、福島原発訴訟原告団事務局次長をされている方です。

用意されていた席数を上回る参加者が集まり、全釧路教組からも９名が参加しました。１時間の講演の後、参加者との質疑応答も、たくさんの発言が続きました。

福島でこれほどの大惨事を引き起こし、未だ廃炉への見通しを持てず、汚染水漏れも深刻な中で、安倍政権は鹿児島県川内原発を再稼働させようとしています。

服部さんは、大飯原発差止判決に「福島」が活かされたと言います。その判決文の最後に、国富論について述べられています。

「コストの問題に関連して国富の流出や喪失の議論があるが、たとえ本件原発の運転停止によって多額の貿易赤字が出るとしても、これを国富の流出や喪失というべきではなく、豊かな国土とそこに国民を根を下ろして生活していることが国富であり、これを取り戻すことができなくなることが国富の喪失であると当裁判所は考えている。」

国と東電の責任を追及し事故前の原状復帰を求める原発訴訟の原告は３８００名。原告は福島５９市町村の全てと多くの隣接県の住民が立ち上がり、たたかっています。服部さんは、「私たちは新しい『時代』を作る魁となる」「犠牲者では終わらない」と力強く話していました。そして、「つながっていれば、私たちは負けない！」と締めくくりました。

私たちも、教組としてつながりながら、集会で様々な立場の人とつながりながら、勇気と希望を持って前に進むことができます。教育の問題、戦争法案の問題など、様々な問題がある中で、子どもたちの未来に責任を持つ仕事に就いている私たちも、「つながっていれば、私たちは負けない！」という服部さんのたたかいに学ぶことが多いと感じました。

私たちは戦わない！大集会に６０００人超

7月11日（土）は、札幌で「私たちは戦わない！大集会」がありました。今年の夏初めて札幌で３０度を超える炎天下のもと、集会には6000人を超える人が集まり、全釧路教組からも７名が参加しました。

集会には、若者、弁護士、宗教者、憲法学者など、様々な立場の方が壇上に立ち、戦争法案反対の訴えをしました。今年１月まで自衛官だった方も壇上に立ち、元自衛官の立場から危険性を指摘するとともに、「自衛隊員の命は首相のおもちゃではない。隊員の流す血や家族の涙に責任が取れるのか。憲法９条は１ミリも変えてはいけない」と話したことが心に残りました。

たくさんの参加者が集まったため、パレード出発から１時間以上たって、ようやく公園出口に到着。パレードの列は、後ろにもまだまだ続いており、すごい人数を実感しました。

国境四叉路抗議集会、矢臼別の集い
猛暑の中、多くの参加者と学習しました

7月12日（日）は、国境四叉路抗議集会、矢臼別の集いでした。例年以上に多くの参加者が集まり、全釧路教組からも７名が参加しました。前日の札幌よりも暑い中、抗議活動と学習をしました。

国境四差路抗議集会では、斎藤執行委員がマイクを持ち、教職員投票の「私のひとこと」欄の記述を紹介しながら、戦争法案反対を訴えました。沿道を通る車から手を振る人も多く、戦争法案反対の世論が大きく広がっていることを感じました。

矢臼別の集いでは、沖縄での集会の参加報告と、若手弁護士による「戦争立法」の講座がありました。講師の吉田弁護士は、具体的な規定がない戦争法案の危険性を指摘しました。「野球のルールは明確だから、失敗したら『何をやっているんだ』と文句を言われる。戦争法案は曖昧だから、何が失敗かわからない。判断は時の政権に任せることになる。安倍政権にその判断を任せることはできるのか。」と、野球を例に話しました。

10日（金）から３日連続の取り組みになりましたが、子どもたちの未来のために今できることに取り組もう！の思いで、多くの組合員が参加しました。今が正念場。土曜街頭宣伝、教職員投票、原水禁大会カンパなど、できる限りの取り組みを進めていきましょう。